

美しい水俣を守るため

江南中学校 三年

私は、小さい頃から水俣の海が大好きです。祖父が水俣出身ということもあって、海に行くときは今でも水俣に行っています。海では泳ぐだけではなく、潜って海の幸を獲ったり、釣りをしたりして楽しんでいます。獲れた魚や貝は、とてもおいしいです。水俣の海には、たくさんの生き物がいて、水もとても綺麗です。

小学五年生の頃、綺麗な水俣の姿しか知らなかった私は、公害の学習で「水俣病」を学習したとき衝撃を受けました。あんなに綺麗な海が、そうではなかった時代があったとは思えなかったからです。また、私達の学年は、コロナウィルスの影響で直接現地に行くことが出来ず、経験者の方のお話も伺えませんでした。そのため、「公害があった」という印象だけが私達の中に残りました。この印象だけでは、私が知る「美しい水俣」のイメージはできません。私は大好きだった水俣が自分の足かせになってしまったような気がしまし

た。それから中学生になり、さまざまな差別について学習していく中で、私が恐れていた水俣病に対する差別もあることを知りました。そこで、水俣病患者の実態を調べることにしました。

水俣病に関する出来事で世間の記憶にも新しいのは、今年五月一日、水俣病の患者団体が伊藤環境大臣と懇談した件ではないでしょうか。団体の方が、水俣病患者と認められないまま亡くなった妻について話していた際、発言が遮られ、マイクの音を切られてしまったのです。

また、団体の方がおっしゃっていた、水俣病患者だと認められないケースは少ない話ではありません。判断基準が厳しく、症状が一つだけである場合は水俣病と判断されることは少ないそうです。前に述べた懇談も、患者の認定制度の見直しや支援の拡充などを訴えるために開かれたものでした。

さらに、水俣病の患者やその家族は、病気だけでなく、周囲からの差別にも苦しんでいました。水俣病が発見された当初は、詳しい原因が分からず、「水俣病は感染する」「遺伝する」といった根

も葉もないうわさ話が広がっていきました。その結果、水俣病の患者のみならず、その家族まで差別されたのです。実際は、メチル水銀が体内に入ることによって起こる病気なので、感染することも遺伝により発生することもあります。正しいかどうかも分からない知識が広まったせいで、水俣に住む人々は苦しまされていきました。

水俣病患者の実態について調べて、正しい知識を持つことがいかに大切なのが分かりました。これは、水俣病に限る話ではなく、すべての差別で言える話だと思います。「水俣病」という未知の病気に恐れをなした人々が、勝手な妄想をうわさ話にして広めた結果、水俣病患者はさらに苦しむことになりました。また、私自身も、今でも続いている問題について触れていなければ、すでに終わったものだと思い込んでいました。このように思い込んでいる人も多いでしょう。しかし、実際は支援が十分ではなく困っている方がいまだにいらっしやいます。

今の私にできることは、現在の実態を知ってもらうことだと思っています。江南中学校の生徒会

執行部で行っている、東日本大震災の募金活動も、そのために行っているものです。私のように、「水俣は綺麗なところ」で終わることは、解決にはつながりません。同じことを繰り返すことにつながります。行動しなければ問題は終わらないのです。未来を背負う私達には、現状を知り、行動する責任があります。これからは、今も続いている問題に関心を持ち、正しい知識をつけて、行動していきたいです。